NIE実践報告

1．タイトル：☆脇岬のよさを新聞でみんなに伝え、心に残していこう

2．学校名

長崎県長崎市立脇岬小学校

3．実践者名（代表者名）

古川　順次

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　8人

6．単元（本時の学習課題）名

脇岬のよさを新聞でみんなに伝え、心に残していこう

7．目標（狙い）

NIEを通して、収集・整理・発信という学年に応じた学び方を身に付ける

8．評価の視点

・新聞の切り抜きを通して新聞に興味をもち、新聞の構成や取材のしかた、記事の書き方がわかったか

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

第1次「新聞に親しむ」好きな記事をスクラップして親子で話し合う(8時間)
第2次「新聞の作り方を知ろう」写真・見出し・記事の構成や役割について知る

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

脇岬小学校が閉校になる年を迎え、自分たちにできることはないだろうかと尋ねると、「脇岬のよさや脇岬小の思い出をみんなに知ってもらい、心に残してほしい」という願いが、子どもたちから出てきた。

そこで、総合的な学習の活動題として設定し、地域へ出て調べていくことになった。活動の中で、「知ってもらい心に残す」ためには、(1)閉校式でのステージ発表、(2)みんなに読んでもらえる新聞配布ーという二つの発信方法をとることになった。

新聞作りについては全く知識がなく、NIEを通して学習することになった。

第1次(1学期)は、新聞に親しむことを目標に進めた。子どもたちは、「新聞は、読めない漢字がいっぱいあり、読んでも意味がわからないものが多い」という抵抗感を持っていた。そこで抵抗感を少しでも減らすため、写真だけを切り抜いて感想を書いたり、担任や保護者・家族といった大人と一緒に読んで、記事について話し合う活動を仕組んだ。同時に、テーマ「脇岬のよさを心に残そう」に沿って、地域に出かけてインタビューを開始した。

第2次(2学期前半)は、子どもにとって身近な記事を題材に、見出し・写真・記事の構成と役割について、3年生なりに知ることを目標に進めた。この時期は、社会でも社会科見学でわかったことを簡単な新聞記事にまとめる活

11．児童・生徒の反応、感想・意見

アドバイスは言葉だけでなく付箋に残し貼ってもらうことで各自が自分の課題を知り、うまくまとめることができた。

12．成果と課題

「新聞は高学年から」という固定概念がなくなった。小学3年生からも十分に活用することができるとわかった。

取り組んでよかったことは

・記事の感想がワンパターン化しなくなったこと。これは、保護者や家族との交流をすることで、より広い考えにふれることができたおかげだと思う。
・記事を通して世の中はいろんなことが起こっていることを、子どもも教師も実感することができて好奇心が強